



Red Hat CodeReady Studio 12.19.1

リリースノート

12.19.1 の特記すべき機能

Red Hat CodeReady Studio 12.19.1 リリースノート

12.19.1 の特記すべき機能

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2021 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Release_Notes.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本リリースノートには、Red Hat CodeReady Studio 12.19.1 の改良点、実装された追加機能、既知の問題、バグ修正、テクノロジープレビュー、非推奨となった機能などの簡単な説明が記載されています。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
第1章 本リリースについて	4
第2章 機能拡張	5
第3章 バグ修正	6
第4章 非推奨の機能	7
第5章 既知の問題	8

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#)をご覧ください。

第1章 本リリースについて

Red Hat CodeReady Studio 12.19.1 は、Red Hat CodeReady Studio 12.19 の更新です。

以下の章では、Red Hat CodeReady Studio 12.19.1 の改良点、実装された追加機能、既知の問題、バグ修正、テクノロジープレビュー、非推奨となった機能などを説明します。

CodeReady Studio 12.19.1 は、複数のソースから利用できます。CodeReady Studio の[設定方法に関する詳細は、『インストールガイド』を参照してください。](#)

本リリースでサポートされるオペレーティングシステム、チップアーキテクチャー、および Java Development Kit(JDK) の[詳細は、「サポートされる構成およびコンポーネント」を参照してください。](#)

第2章 機能拡張

- Red Hat JBoss Wildfly 24 と動作するように、サーバーアダプターが CodeReady Studio に追加されました。
- コンポーネントタイプおよびスタータープロジェクトから新規コンポーネントを作成できるようになりました。(JBIDE-27676)
- Hibernate ランタイム 3.5、4.0、5.0、5.1、5.2、および 5.3 はデフォルトで無効にされるようになりました。再有効にするには、Hibernate 設定ページの設定を変更します。(JBIDE-27841)
- CodeReady Studio には、Hibernate バージョン 5.5 以降の今後の Hibernate リリースのランタイムプラグインが含まれるようになりました。(JBIDE-27351)
- CodeReady Studio での OpenShift の改良機能
 - OpenShift ツールは **odo 2.2.2** をベースとするようになりました。(JBIDE-27837)

第3章 バグ修正

- 本リリースの CodeReady Studio で解決された問題の情報は、[こちらの解決済みの問題](#) を参照してください。

第4章 非推奨の機能

本リリースには非推奨になった機能はありません。

第5章 既知の問題

本リリースの CodeReady Studio における既知の問題の情報は、「既知の問題」を参照してください。

特記すべき既知の問題を以下に示します。

- [JBDS-4710](#): ページのリロード後、中央ページにコンテンツが適切に表示されない。
この問題を回避するには、Red Hat Central を再度開きます。
- [JBIDE-26118](#): 現在の選択したソースから JSF2 複合コンポーネントを作成できません。
- [JBDS-4818](#): MacOS 向けに署名されていない CRS インストーラー。
- CodeReady Studio におけるターゲットプラットフォームおよびインストーラーの既知の問題：
 - [JBIDE-27605](#): BYOE 2020-09 + JBT 4.17.0.Final から JBT 4.18.0.Final への更新時に依存関係が競合します。
この問題を回避するには、**Help** → **Install New Software** に移動し、**Jbosstools** の安定した更新サイトを選択し、JAX-RS および JAX-WS 機能の両方を選択します。どちらの機能も更新されます。

または、**Preferences** → **Install/Update** → **Available Software** を選択して、最新の Eclipse リリースを無効にします。これにより、Eclipse 2020.12 がインストールされます。
 - CodeReady Studio における OpenShift の既知の問題：
 - [JBIDE-27066](#): JDK11 を使用して OpenShift 4.4.0 クラスターにログインできない。
この問題を回避するには、JDK バージョン 8 を使用するか、SSL プロトコルとして TLSv1.2 を使用するように Java を設定します。

TLSv1.2 を使用するように Java を設定するには、CodeReady Studio インストールディレクトリー内の studio ディレクトリーにある **filecodereadystudio.ini** を開きます。

-vmargs セクションに以下の行を追加します。


```
-Djdk.tls.client.protocols=TLSv1.2
```
- CodeReady Studio の Webservices の既知の問題：
 - [JBIDE-27743](#): Wildfly 22 および Apache CXF 3.3.5+ を使用して **wsdl** 定義から Web Service クライアントを作成できない。
この問題を回避するには、CXF ランタイムの代わりに Apache Axis または JBossWS を使用して、サービスクライアント定義を続行します。
または、ソースフォルダーの順序を更新してエクスポートし、ソースフォルダーが最初に表示されるようにします。これを行うには、**Dyn のパスを使用します**。**Web Project** → **Properties** → **Java Build Path** → **Order** をクリックします。
 - [JBIDE-27744](#): WS Tester は DH キーの小さいため、POST 要求を許可しない。
 - [JBIDE-27781](#): 生成される **web.xml** 記述子を持つ Dynamic Web プロジェクトの削除時に NPE が発生する。
 - [JBIDE-27842](#): WS Tester JAX WS invocation for **localwsdl** results results in error message **Provider org.apache.axis2.jaxws.spi.Provider not found.**

- CodeReady Studio でのコード Ready コンテナの既知の問題：
 - [JBIDE-27741](#): CRC は適切に起動しないため、エラーメッセージ「Unable to execute request to request url https://api.crc.testing:6443/.well-known/oauth-authorization-server」が表示される。
 - [JBIDE-27921](#): Windows および MacOS での CRC 1.28.0 の設定は **bin/oc** を提供しないため、CRC ツールが起動しない原因となります。
この問題を回避するには、CRC ホームディレクトリーに移動し、binlog ディレクトリーを作成します。
 - [JBIDE-27927](#): Windows 10 で CDK が起動していても、CDK ツールが **Started** 状態を取ることができません。
- CodeReady Studio で Fuse Integration Project の既知の問題は次のとおりです。
 - [FUSETOOLS-3337](#): DataTransformation のある Fuse プロジェクトを Karaf 7.x ランタイム上の Fuse にデプロイできない。
 - [FuseTOOLS-3373](#): Fuse インテグレーションプロジェクトが Camel バージョン Fuse 7.2 および 7.1 のエラーで作成された Fuse インテグレーションプロジェクト。
この問題を回避するには、以下の行を **jakarta.xml.bind-api** ファイルに追加し、jakarta バージョンを定義します。

```
<dependency>  
<groupId>jakarta.xml.bind</groupId>  
<artifactId>jakarta.xml.bind-api</artifactId>  
<version>2.3.3</version>  
</dependency>
```

利用可能な最新バージョンは 2.3.3 です。最新バージョンの詳細は、「[Maven Repository: Jakarta XML Binding API](#)」を参照してください。